



## プログラム

- 13:30 研修会開会・挨拶
- 13:45 研修会の実施と今後の活動について
- 14:00 研修講演『五福・桜谷・呉羽の魅力と再発見』
- 15:30 解散

### 1. 観光ガイド研修会の実施と今後の活動について

#### ①目的

呉羽山観光協会の事業「観光資源を利用促進する」と位置づけする。

『五福・桜谷・呉羽の魅力と再発見』と題しての研修会とします。

呉羽山観光協会主催でなおかつ 50 年近く活動して来ました歴史や地域としての特徴をお知らせします。

呉羽山観光協会としては『富山市観光ボランティアグループ』として登録（平成 31 年 5 月）の予定です。現在 11 グループ

10 月 4 日(木)以降に皆様のご協力を得ながら行いたいと思っています。

#### ②ガイドコース

ガイドコースをお示ししますので希望のコースを選択して下さい。

予定するガイドコースは次のとおりです。

1. 呉羽山公園「立山仰ぐ特等席」と有頼少年像におけるポイント・ガイド  
(英語・日本語のガイドを予定)
2. 民俗民芸村⇒長慶寺と五百羅漢⇄・高見平和の像⇒北代縄文広場周辺のコース  
ガイド
3. 五福公園⇒七面堂⇒常夜灯⇒稲荷神社⇒石仏群⇒木俣修歌碑⇒呉羽ハイツ周辺  
のコースガイド

次回(9月6日(木))は、実地コースとします、選んだコースごと回ります。

グループごとに資料と案内板の確認をする。

出来たらマニュアルを作成する。

10月4日(木)マニュアルの読み合わせ現地確認する。

ガイドの登録を行う。

### ③ガイド研修スケジュール

9月 6日(木) 実地コース研修

10月 4日(木) 実地コース研修

11月 1日(木) 実地コース研修

2月 14日(木) 全体研修

### ④研修会参加者名簿 (27名)


(※敬称略)

## 2. 呉羽山観光協会の概要

①設立年月日 昭和45年2月3日

②対象区域 富山市呉羽丘陵を包含する区域

③会員

個人(26)、自治会などの団体(24)、企業法人(13)

(平成30年7月現在)

④歴代会長

初代会長 山森利一 (昭和45年～昭和46年度)

2代会長 高見之元 (昭和47年度～昭和55年度)

3代会長 中村久一 (昭和56年度～平成5年度)

4代会長 尾山征一郎 (平成6年度～平成8年度)

5代会長 荒川重信 (平成9年度～平成17年度)

6代会長 田畑宏継 (平成18年度～平成29年度)

7代会長 田畑裕明 (平成30年度～ )

⑤主な活動内容

- ・ 呉羽山写真コンクール（昭和 50 年代実施、現在休止）
- ・ 呉羽山音頭の普及
- ・ 呉羽山清掃活動の日に参加
- ・ 観光案内板の設置、補修管理  
自主：22ヶ所 城山の案内1ヶ所 富山市と共同1ヶ所  
老田地区と共同7ヶ所（HPに掲載）
- ・ 富山チンドンコンクール協賛
- ・ 「富山悠久の森」事業協賛
- ・ 「旧北陸街道を歩く」歴史探訪歩行会の開催

第1回（平成20年）旧北陸道を歩く 富山城址⇒茶屋町

第2回（平成21年）旧北陸道を歩く 茶屋町⇒小杉手崎

第3回（平成22年）呉羽丘陵北川 呉羽山

第4回（平成23年）呉羽丘陵南側 白鳥城址⇒大峪城址

第5回（平成24年）呉羽丘陵南側（池多・古里地区）古洞の森⇒王塚古墳

第6回（平成25年）古沢地区 ファミリーパーク⇒安田城址⇒杉谷古墳

第7回（平成26年）寒江郷に魅せられて 寒江地区

第8回（平成27年）藩境の文化に魅せられて 老田地区

- ・ 観光案相書籍の発行

「旧北陸街道を歩く」 平成21年9月発行

「呉羽丘陵とその周辺 ぶらりみどころ」 平成27年3月発行

呉羽ハイツにて販売中 1,200円

- ・ 五時谷石造物移設事業
- ・ 呉羽丘陵野鳥観察ウォーキング
- ・ 呉羽コミュニティーバスへ出資
- ・ 呉羽丘陵の観光ガイド事業の準備

⑥事務所：呉羽ハイツ 富山市吉作 4103-1

連絡先：Mail: [mt\\_kureha@yahoo.co.jp](mailto:mt_kureha@yahoo.co.jp)

Web [Http://www.geocities.jp/mt\\_kureha](http://www.geocities.jp/mt_kureha)(呉羽山観光協会検索)

## 観光ガイド研修会（平成 30 年度第 1 回）

■ 演題：「五福・桜谷・呉羽の魅力と再発見」

■ 講師：山口 五十一 氏（呉羽山観光協会 副会長）

# ガイドボランティア研修会

## 1. 自己紹介

## 2. 呉羽山観光協会の概要

歩行会	開催年月日	歩行会の名称	歩行区間
1 回目	平成 20 年 11 月 8 日	旧北陸街道を歩く	富山城址～愛宕～桜谷～五福～観光ホテル
2 回目	平成 21 年 10 月 17 日	旧北陸街道を歩く	観光ホテル～追分茶屋～吉作東京町～野口～願海寺～西二俣～小杉手崎～観光ホテル
3 回目	平成 22 年 10 月 23 日	呉羽丘陵（北側）	観光ホテル～五福新道～八幡社～五百羅漢～御廟～北代縄文広場～緑化植物園～県埋蔵文化財センター～お野立所～観光ホテル
4 回目	平成 23 年 10 月 22 日	呉羽丘陵（南側）	観光ホテル～白鳥城址～富山稲荷神社～白鳥神社～大峪城址～観光ホテル
5 回目	平成 24 年 7 月 21 日	呉羽丘陵（南側）	古洞の森～王塚古墳～各願寺～勅使塚古墳～五ッ塚古墳～富山市天文台～古洞の湯
6 回目	平成 25 年 10 月 19 日	呉羽丘陵（南側）	ファミリーパーク～安田城跡～中堂寺～友坂熊野神社～杉谷古墳群～古沢塚山古墳～古沢神社・古沢用水～ファミリーパーク
7 回目	平成 26 年 11 月 8 日	周辺部（寒江地区）	寒江小学校～二上神社～野口旧北陸街道～「銀坊主」石碑～願念寺～自得寺～本郷公民館
8 回目	平成 27 年 11 月 15 日	周辺部（老田地区）	老田小学校～青莪小学校跡地～海内果生誕生地～巡見上使道・道番～筆塚～東老田功績碑～義人碑

- ・「旧北陸街道を歩く」冊子発行（平成 21 年 9 月 30 日）
- ・「呉羽丘陵とその周辺、ぶらりみどころ」冊子発行（平成 27 年 3 月 31 日）
- ・「五時谷石像仏群の移設工事」（平成 29 年 10 月 30 日～平成 29 年 11 月 22 日）
- ・「石像仏群銘板の設置」（平成 30 年 4 月 23 日～平成 30 年 5 月 8 日）
- ・「五時谷、七面堂復元事業への取り組み」



### 3. 見どころ紹介

#### (1) 呉羽山丘陵とは

丘陵（きゅうりょう）とは、なだらかな起伏や小山（丘）の続く地形のことである。地形学では高度や起伏が山より小さく、台地より大きいものを指す。（300mくらいまでの起伏）

「旧北陸街道を歩く」P.75(第3回歩行会パンフ)によると、南は友坂から、北は百塚までの約8Km、幅、最大で2Km、城山(145.3m)、呉羽山(71.3m)八ヶ山(35.0m)のピークを持つ。

「国土地理院の基準点」

	名称	等級	地名	標高(m)
	呉羽山公園	3等	呉羽山	71.3
	呉羽山峠茶屋	4等	峠茶屋	75.2
	越城山	1等	白鳥城址	145.3
	古沢	4等	古沢(青少年の家)	52.8

#### (2) 旧北陸街道とは

古代日本の律令制(中央集権的)での行政区画は、**五畿七道** ([1869年明治2年](#)、北海道が新設されてからは**五畿八道**) とよばれた広域行政に分割されていた。

**五畿**とは、[大和](#)、[山城](#)、[摂津](#)、[河内](#)、[和泉](#)の五国。現在の奈良県、京都府中南部、大阪府、兵庫県南東部を合わせた**地域七道**とは、東海道、東山道、北陸道、山陽道、山陰道、南海道、西海道の七道。

- ・東海道：現在の茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、山梨、静岡、愛知、三重（熊野地方を除く）の各都県を合わせた地域。
- ・東山道：現在の青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島の東北6県と、栃木、群馬、長野、岐阜、滋賀の各県を合わせた地域。
- ・北陸道：現在の新潟、富山、石川、福井の各県を合わせた地域。
- ・山陽道：現在の兵庫県南部と、岡山、広島、山口の各県を合わせた地域。
- ・山陰道：現在の京都府北部と兵庫県北部および、鳥取、島根の各県を合わせた地域。

- ・ 南海道：現在の香川、徳島、愛媛、高知の四国 4 県と、三重県熊野地方、和歌山県、淡路島を合わせた地域。
- ・ 西海道：現在の福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、熊本、鹿児島九州 7 県の地域。

これらは、地理的な行政区分であるという見方もされるが、地域ごとに独立した行政府がある訳ではないため、国の集合地域区分という見方もされている。畿内から放射状に伸び、所属する国の国府を順に結ぶ駅路の名称でもあった。

「旧北陸街道を歩く」P. 60 によれば、

このころの越中国の北陸道は、平安時代の延喜式によれば、「坂本(石動)―川人―亘理(伏木)―白城―岩瀬―水橋―布施―佐味」

「旧北陸街道を歩く」P. 8 によれば

藩政時代の北陸道は、金沢町―富山町間で、石動―戸出―水戸田―追分茶屋―峠茶屋―富山町、

高岡町が誕生してから金沢―高岡町―水戸田―追分茶屋―峠茶屋―富山町、

富山藩ができてから、加賀藩の参勤交代路として富山町を通らない金沢―高岡町―小杉―白石―岩瀬が整備される。併せて小杉手崎から願海寺を経て追分茶屋につながる富山道(富山往還道)が整備なる。

(3) 富山城について

「旧北陸街道を歩く」P. 12

- ・ 現在の富山城は、戦災復興のシンボル
- ・ 「浮き城」と呼ばれた富山城
- ・ 400 年間の盛衰
- ・ 江戸時代の富山城は大きかった
- ・ 残っていた御門
- ・ 城下町は中世からあった
- ・ 戦災復興事業とは、(富山市のまちづくりの変遷)

昭和 20 年 8 月 1 日の戦災による復興事業として 554.1 ha、(旧市街地 8 校区、八人町、柳町、清水、五番町、愛宕、総曲輪、星井町、西田地方)土地区画整理事業をいう。(昭和 22 年から昭和 47 年)

昭和 29 年、戦災復興事業の完成を祝って、「富山産業大博覧会」が開催され、その博物館として「富山城」が建設された。（そのほか、富山市役所、富山公会堂も建設）

これ以前に明治 23 年 3 月 20 日、北陸鉄道が敦賀～富山駅（神通川西側、田刈屋）まで完成

明治 34 年から 36 年、神通川の馳越工事が行われ神通川が直線化された。（廃川地が残されたままになる）

明治 41 年、新呉羽山トンネル、神通川鉄橋、富山駅が完成し魚津駅まで開通した（呉羽駅誕生）

昭和 3 年から 9 年、「都心地区土地区画整理事業」により廃川地の埋め立てと富岩運河（5.5 km）の開削が行われた。

新しく市街地となった廃川地に県庁、電気ビルなどが建ち並び昭和 11 年に「日満大産業博覧会」が開催される。

（4）特筆する見どころ

#### ①石坂、交差点のお堂

なかに、三体の石仏が安置され、中央の胎蔵界大日、右に阿弥陀像、左に聖観音像が並んでいる。

その台座が道標を兼ねており、阿弥陀像の台座に「右 岩瀬道四方道」聖観音像の台座に「左 山道」と別々に刻まれている。また福井市の足羽川、笏谷石の香炉がある。

#### ②長岡新、五如来堂

五如来像と弘法大師像が祀られており、弘法大師像の台座に名工と言われた太田村大字石屋 石工 牧喜右エ門」の名が刻まれている。た福井市の足羽川、笏谷石の香炉がある。

#### ③北代の「極楽寺跡」

北代の専龍寺の前に金毘羅堂と「光明山極楽寺」と刻まれた石碑が立っている。地元では、総門、大門、釈度寺、余慶寺坊守、奥の院などと呼ばれる地名が残っており、その広がりには北代全域となる。

「越中旧事記」によれば、極楽寺を中心に 24 の寺院があったとされる。鎌倉時代以前に建てられていたが、1560 年上杉謙信の富山攻めの際に戦火にあい焼失した。

#### ④呉羽山、豊栄稻荷神社

富山藩との所縁がある神社で昭和 48 年に富山市星井町から遷座された。

富山藩 2 代藩主前田

正甫公が五穀豊穰と殖産振興を祈願するため、藩の米蔵があった千石町に祀ったことに始まる。

富山藩社として稲荷大神を主神とし「菅原道真」を神とする天満宮、医薬の神、「少名彦神」と富山売薬の始祖、前田正甫公と発展に尽くされた方々を祀る「薬祖社」がある。

#### ⑤旧北陸街道沿道から移転した石碑など

・「鬼頭崎岩右衛門」の石碑（明和8年、1771越中に来ているが、越中勸進相撲の祖とされる。）

五福藤子、飯田正一郎宅前から五福の熊野神社境内へ

・「中田文敬」の石碑（加越能三州関流算学の元祖とされる。石黒信由らの優れた人材を輩出した。）

五福藤子、足立塚付近から梅沢町、極楽寺へ

・「芭蕉塚」（はせを翁塚と言われ、俳人へつぼつ庵、二世玉斧が百回遠忌追善に建立する。）

五福藤子、足立塚付近から愛宕町愛宕神社境内へ

・「花乃知里塚」（越中の華道、茶道、盆景の基礎を築いた「鳥山紫山」を讃えて弟子たちが建立した石碑）

五福藤子、足立塚付近から千石町、西福寺へ

#### ⑥富山藩と加賀藩